

游
游

中しなければ坊主になる今まで
宣言しています。芸能人のみな
らズ女性の経済的自立の結果な
のか現在離婚する夫婦が増えて
います。つい先だつても、教え
子の離婚騒動の相談を受けまし
た。
流行歌『瀬戸の花嫁』の文句
に「愛があるから大丈夫なの・

今年最大の話題は、超アイドルの宮沢りえと角界のプリンス貴花田との結婚話でしょう。なしろ、どうどろとした政界のスキャンダルが続くなか、一服の清涼剤といったところでしかねないか。海外にもそのニュースが早速報道されました。マリリン・モンローや大リーグ選手ジョーデイマジオと紹介されるに及んでは、いかにその結婚話の反響の大きかったかが判ります。

芸能人の結婚は、鳴り物入りで結婚すればするほど、その破局も世間の耳目をあつめます。はやくも山城新吾さんは、この結婚の破局、離婚を予言し、的

愛があるから大丈夫

結婚は仏道修行

宮沢りえ & 貴花



りえ&貴花田

・・・とあります。愛とは永遠不滅なのでしょうか。夫婦の絆を「愛」をとおして、仏教的には考えてみたいと思います。夫婦の仏教では「愛」は否定され、「愛してはならない」と説いています。愛してはならぬと教え合で他人を愛し、他人を束縛しようとします。仏教ではこれを「欲愛」と呼んでいます。愛される者がこの束縛から逃れようとすれば、愛は憎悪に転化します。下世話にいうなら、可愛さあまって憎き百倍、愛憎のもつれから血なまぐさい事件に発展するケースも珍しくはありません。まさに「愛はI(アイ)に通じる」のです。

とは言うものの、「愛」のない夫婦は、クリープのないコヒーのようなものです。家庭内離婚の夫婦のようなものでは、なぜ「愛」してはならぬのでしょうか。それは「愛い」のでしようか。それとも「愛い」あまりにも自己本位だからです。

仏教では、ありとあらゆるものが「空へくう」であるとも教えています。般若心経でいうところの「色即は空 空即は色」の「空へくう」ですが、この「空」をひとつで説明すれば、「こだわるな!」「自由であれ!」ということです。

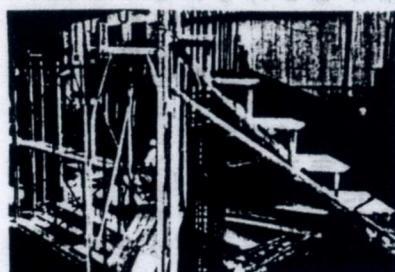
こだわりのない愛こそ、夫婦の絆を深める愛なのです。おおらかな愛——そのような愛こそ仏教ではすすめているのです。イギリス人トーマス・マラードは次のような警句を残しています。「結婚前には両目を大きく見て見よ。そのかわり結婚し

境内が美しくなることは檀信徒の皆様の喜びであり、
本堂前の紅白の幟幕で囲まれた架設テントに、祭壇がこしらえられ、随喜寺院六ヶ寺員長酒向正和氏が檀信徒を代表して鍵入れ、ついで施工の中山工務店社長中山耕一氏と和尚方の読経のなか、建設委員長酒向正和氏が檀信徒を代表して鍵入れ、ついで施工の奉請札が鋤こまれました。現在工事は順調にすすみ、

現在建設中の檀信徒会館の名称を「龍燈会館」とさせて頂きます。当初、当院開山の龍溪禪師のご遺徳をしのぶと

さる八月十九日水灯会（お施餓鬼法要）当日、地鎮祭が挙行されました。台風来襲のため、朝から土砂降りでした。が、本当に不思議なことに、仏天の加護の賜物か、地鎮祭の始まる午後一時にはすっかり、雨もあがり薄日までさしかかり、無魔円成することができました。

○龍燈会館に名称決定



順調に進む建設工事 (10.28)

○地鎮祭修される

年末の墓参時には、その威容を示すことでしょう。



檀信徒の皆さまへ

たら片目を閉じて見よ、結婚して片目を閉じるといふのは、人間である以上、いろいろな欠点も見えてきます。それを片目を見つかりお互いに許しあえるようなおおらかな愛こそが、夫婦の絆を深めるには必要なのです。

最後に、この世に一人、坊主頭が増えないように、お二人のお幸せをお祈りします。

年忌表 (平成5年)

回忌	死年	亡年
1周忌	平成4年	
3回忌	平成3年	
7回忌	昭和62年	
13回忌	昭和56年	
17回忌	昭和52年	
25回忌	昭和44年	
33回忌	昭和36年	
50回忌	昭和19年	

年忌法要は祥月命日前の場合は土曜・祝日曜にされ事務事務です。前場が多くの場合と予想されます。また、他家の法事まで遅くとも1カ月以上前とあります。当院まで、日取りをお願いします。又、ご法事などに是非龍燈会館をご利用下さい。

○宗祖御生誕慶賀法要 団体参拝のご報告

さる十一月七日、大本山萬福寺での慶讃法要は、小納も泊り込みで手伝いに登つていました。全国からの善男善女の方々が参詣でおおいに賑わいました。当院からも、十一月七日二十三名の方々が参拝されました。お授戒は二十三名の方々がお受けになりました。ご苦労様でした。

十一月二十六日現在の寄附状況ですが、三百八十三人の方々より、総額四阡三百二十

○寄附金勧募状況ご報告

ともにお名前をひろく世間に知らしめるべく龍溪会館と考えていましたが、ご開山のお名前をそのままお使いするのほうが常とのアドバイスを受けていました。そこで、弊師が発行していた寺報の名称（拙報もそれを引き継ぎました）の「龍燈」を使うこととしました。ご開山特賜太宗正統禪師龍溪大和尚から連綿と継がれた法脈を微光なりとも燈しつづける気持ちをこめています

三万五阡円のお申込みを頂いております。（三阡七百五十四万円納付済）納付締切りが来春三月末日です。宜しくお願いします。

位牌堂（納骨）募集要項

来春竣工する檀信徒会館（名称 龍燈会館）二階に、祀堂（納牌堂）を新設します下記の種類で皆様方のご先祖様のご供養をさせていただきます。

●永代供養位牌のおすすめ

本来、菩提寺には檀信徒の方々のご先祖様のお位牌をお祀りする祀堂（納牌堂）があります。ご存知のように当院は戦災のため、すべての伽藍は焼失したため、本堂の本尊左手に檀信徒の有志の方々のお位牌や預骨（納骨までの間の一時預かり）をお祀りしてまいりました。これまで種々雑多なお位牌やお骨が一杯で、ご本尊様の御足元にも預骨をお預かりしている有り様で、誠にご本尊様に申し訳なく、何とかしようと常々思案してまいりました。今回の新築を機にすべてを会館二階の祀堂（納牌堂）に移し、永代供養位牌ならびに納骨仏壇を数基設置することしました。

何分、スペースに限りがあります。是非にお申込み賜りますようご案内申し上げます。尚、お位牌は過去牒位牌（繰り出し位牌の中に過去牒が入ったもの定価5万円）にし、ご先祖様すべてをお祀りできます。（一般には○○家先祖代々という位牌です）

▷永代供養位牌冥加金 一牌 10万円（位牌代金込み）

※お位牌はすべてお寺で作製させていただき、同一のもので統一いたします。



●納骨仏壇のご案内

水灯会（施餓鬼法要）の折り、実物をお見せいたしましたが、今回 納骨仏壇を祀堂（納牌堂）に6基、預骨ロッカー20基 設置することになりました。納骨仏壇は漆調仕上げの日本アルミ製の上下二段で、寸法 横幅400mm 奥行400mm 高さ1,900mmで上部前側がお仏壇で、後側が収納室になっています。お仏壇の扉の開閉により、灯籠が自動的に点滅します。後側収納部に正骨（のど佛）なら9柱収納可能です。お申込み順にご希望の位置を決定します。

預骨ロッカーは、同様の漆調仕上げの日本アルミ製で、横幅325mm 奥行400mm 高さ345mm の大きさのロッカー仕様のものです。預骨ロッカーは、建墓までの間預骨を希望される方や、跡継ぎがなく将来お祀りが必要な方を対象とします。後者については納骨後6年を経過すると、新たに建立予定の九島院有縁塚に合祀し、永代にご供養させていただきます。

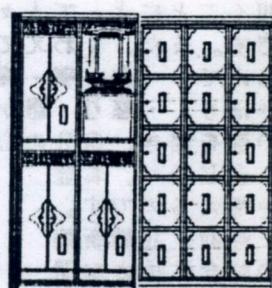
▷納骨仏壇 寅加金 上部 100万円 下部 80万円
年間管理費 1万円（永代管理費 20万円）

▷預骨ロッカー

○永代供養 寅加金	30万円	年間管理費 不要
○一時預骨 年間管理費	1万円	

※いずれも、宗旨に関係なくどなたでもお申込みできます。

その他、不明な点・ご相談事がありますれば、お参りの節かお電話にてお尋ね下さい。お申込みは、来春彼岸頃よりお受けいたします。



●木魚と開梆

ずいぶん前のことです。初めてお盆の棚経の手伝いをした時のことです。前夜、師匠から口うつしで棚経の簡単なお経を教えられた私は、不安を胸にお檀家さんへむかいました。あるお檀家さん宅のことです。そのお家は、姑さんと奥さんがおられましたが、お仏壇には木魚がありました。木魚があれば叩かなければなりません。なにしろ初めてのことです。お経も満足に読めないので木魚を叩きながら、お経の頁をめくるのはたいへんなことです。しひれに足をもじもじさせながら、お経を読みだしました。

大変なことがおこりました。木魚の倍（たたく棒）が普通のものなのに、木魚があまりにも小さいのです。玩具のような木魚は、叩くたびに跳ね上がります。ポク・・・摩訶般若波羅蜜陀心経・・ポク・ポク・ポク・・・。そのうちに木魚が逃げだしたのです。こちらの気も知らずに木魚は跳ね回り、逃げ回るのです。まるで『モグラたたき』のような有り様で、全身冷や汗でびっしょり、だんだんと木魚にふりまわされている自分がおかしくなり、笑いをかみしめながら心経を続けます。ふと後ろを見るとその家の姑さんと奥さんが怪訝（けげん）な顔をして、こちらを睨んでおられます。あの時ほど、寿命の縮んだことはありません。

木魚にはこんな思い出があります。木魚は一説によると、宗祖隱元禪師がわが国に初めてもたらしたものだそうです。宇治の萬福寺には『開梆（かいばん）』といつて、長さ3メートルちかくもの大きな魚板がありますがこれが家庭にあるような木魚に変化したものだといわれています。今はデフォルメされ、「龍頭魚身」といって二匹の龍が向かい合って玉をくわえ、からだは鱗のある様に作られています。もともとは、食事や法要の開始の時刻を報ずる道具ですが、お経の調子をあわせるために打たれるようになったものです。

木魚の由来は、魚は眠ることがないことから、それを叩くことによって人々を怠惰や惰眠から戒める為だそうです。また、くわえている玉は、私たち人間の心になぞらえて、『貪・嗔・痴（とん・じん・ち）』（貪り（むさぼり）・怒り・愚かさ）の三毒を表しています。木魚の音を聞き、自分の心が少しでも三毒を浄化させたまえと念じつつ、お経を唱えるのです。

今回、会館新築の記念に小さな開梆を新添しますがそうした意味も知って下さい。



奉納のぼり八本ご寄贈
(平成四年十一月)
今般、政所慶介氏より『中道院輝眩仁明居士』尊靈位のご供養にと、奉納のぼりを八本、ご奉納頂きました。工事が一段落した折に、立てる予定です。厚く御礼申し上げます。

奉 納 、 抄

▼長島茂雄が巨人軍に戻ってきました。今年の阪神タイガースの活躍は目を見張るものがおりましたが、最後の最後で優勝・日本一の夢も野村ヤクルトに破れてしまいました。来年は、長島巨人軍と、ますますセリーグが面白くなるにちがいありません。手は当初、長嶋と『山邊』があつたようになります。当院も明治の頃は古い記

録では『九嶋院』と表記していました。いつのまにか、『山邊』がなくなり、九島院と呼ばれるようになつたようです。恐らく、戦後の宗教法人法の施行に伴い『九島院』と宗教法人登記がなされたのでは、と思います。▼来春の『龍溪会館』の竣工、落慶法要小衲の晋山式と、いよいよ新生『九島院』も来春スタートをきります。微力ではあります、が、龍溪禪師の法燈を絶やさないよう精進する所存であります。皆々のご指導ご鞭撻をお願いします。

編集後記